

带状疱疹ワクチンについて

経緯

- 平成 25 年 12 月国からワクチンメーカーに対して带状疱疹ワクチンの開発を要請した。
- 平成 26 年 3 月予防接種に関する基本的な計画において、開発優先度の高いワクチンに、带状疱疹ワクチンが位置付けられた。
- 平成 28 年 3 月阪大微研が製造する『乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」』について、「50 歳以上の者に対する带状疱疹の予防」に対する「効能・効果」が追加承認され、平成 28 年 6 月ワクチン評価に関する小委員会において、ファクトシートを作成することとなった。
- 平成 29 年 2 月の第 6 回 ワクチン評価に関する小委員会において、多屋委員より「带状疱疹ワクチンファクトシート」が報告され、ファクトシートに基づき、带状疱疹の疾病負荷や、带状疱疹ワクチンを定期の予防接種で用いる場合に期待される効果や安全性について議論が行われた。（参考資料 1）
- 第 6 回のワクチン評価に関する小委員会で議論された論点ごとに、ファクトシートに記載されている知見や、各委員・参考人の意見は別添 1 のとおり。

前回の論点を踏まえた対応

- 引き続き議論すべき論点を、「带状疱疹の疾病負荷」と「带状疱疹ワクチンの効果」の大きく2つに大別し、事務局で以下の通り整理した。
- 上記の論点に対する知見を得るべく、平成29年度厚生労働科学特別研究事業において、「診療情報データベースを用いた带状疱疹の疫学等に関わる研究」を池田委員に立ち上げていただき、診療報酬データベース（NDB）等を用いて、带状疱疹による全国の疾病負荷の推計、費用対効果の試算等を開始していただいている。（別添2）

検討事項

- これまでの議論を踏まえて、以下の論点について、ご検討いただきたい。

○ 論点

1. 带状疱疹の疾病負荷

国内の带状疱疹の疫学状況について、带状疱疹の罹患、带状疱疹後神経痛、重症例、入院例、死亡症例の疾病負荷が十分に明らかとなっているか。

2. 带状疱疹ワクチンの効果

带状疱疹ワクチンの有効性について、带状疱疹の罹患や带状疱疹後神経痛へ期待される効果が十分に明らかとなっているか。

年齢依存的な罹患率やワクチンの有効性を踏まえた場合に、導入に最適な対象年齢が明らかとなっているか。

国内で带状疱疹ワクチンを導入した場合の医療経済学的評価について、十分に明らかとなっているか。